

第 22 回たじみ子ども会議 意見書
けんとうけ っ か ほうこくしょ
検討結果報告書



令和 3 年 3 月

多治見市

いけん あた ことば がけ ところ いばしょ
意見： 温かい言葉がけ・心の居場所について

い うれ ことば おお ひと し ことば
言われて嬉しかった言葉を多くの人に知ってもらい、言葉がけしてもらえるように、
じょうほうはっしん
情報発信してください。

し かんが たいおう
市の考え・対応

みな いけん こ みな いっしょ ところ いばしょ たいせつ あた ことば
皆さんからの意見をもとに、子どもの皆さんと一緒に心の居場所の大切さや「温かい言葉がけ」
についてじょうほうはっしん
情報発信します。

ぐたいてき こうほう こ けんり かんが がっこうほう おやそだ
具体的には、広報たじみのコラム「子どもの権利を考えよう」や学校報の「親育ち4・3・6・
3」コラムにおいて、こ かいぎ だ いけん じょうほうはっしん えんえむ
子ども会議で出された意見をふまえながら情報発信します。また、FMピピ
の「たじみ しみん む じょうほうはっしん おこな じょうほう
多治見シティガイド」において、市民のみなさんに向けた情報発信も行います。これらの情報
はっしん おこな こ きょうりょく
発信を行うときには、おとなだけでなく子どものみなさんにも協力してもらいます。

さらに、「たじみ こ かいぎ こ ていあん がっこう ところ いばしょ
子ども会議☆子どもスタッフ」のみなさんの提案により、学校などで心の居場所
や「あた ことば よ くば よてい げんこう
温かい言葉がけ」を呼びかけるチラシを配る予定にしています。このチラシの原稿は「たじみ
こ かいぎ こ つく
子ども会議☆子どもスタッフ」のみなさんに作ってもらいます。

こんかい いけん おお ひと ところ とど いけんしよていしゅつ とき しちょう い こ
今回の意見をより多くの人の心に届けるため、意見書提出の時に市長が言われたように、子
ものみなさんがあた ことば たの す かぞく ともだち
温かい言葉がけのリーダーとなって、みんなが楽しく過ごせるように、家族や友達、
せんせい かつどう わ ひろ うれ おも
先生などに活動の輪を広げてもらえると嬉しく思います。

（くらしじんけんか
人権課）

「たじみ子ども会議☆子どもスタッフ」のみなさんと一緒になって、当初の予定どおり

以下の4つの取り組みを行いました。

1. 広報たじみ(tajimist)コラム「子どもの権利を考えよう」

子どもの権利を考えよう

子どもたちの声を届ける
第22回たじみ子ども会議より

くらし人権課・水野

TEL 22-1128

シリーズ Vol.108

令和元年12月15日に、「第22回たじみ子ども会議」を開催しました。この時、子どもたちが話し合った内容を「たじみ子ども会議☆たじみ子どもスタッフ」が意見書としてまとめ、8月に市長へ提出しました。今回は意見書の内容を取り上げてみたいと思います。

◆15往復以上の会話を心掛けよう
子ども会議では「15往復以上の会話」というキーワードが出てきました。普段の会話を思い浮かべてみてください。例えば親から子どもに「今日学校は楽しかった？」と尋ねると、子どもは「楽しかったよ」などと答えると思います。これで会話が終われば「1往復」の会話となります。子どもからの答えに対し「よかったね、どんなことが楽しかったの？」など、さらに言葉を返すことで15往復以上の会話が生まれます。

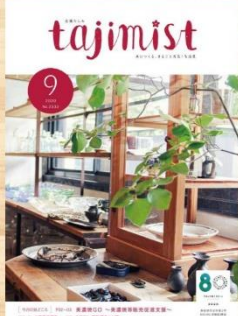
◆デジタル時代の今だからこそ子どもたちからこのような意見

が出された理由として「スマートフォンやSNSの普及が直接対話する時間を奪っているのではない」という素朴な疑問がありました。家庭や学校などで、家族や友人と対面したときの何気ない会話を大切にしたいと子どもたちは感じているようです。そんな日常的なコミュニケーションを広げるためにも「15往復以上の会話を心掛けたい」と感じます。

◆会話の内容にも意識を向けて…
このほかにも、意見書の中には「感謝」「応援」「ほめる」など、嬉しいような言葉をかけてほしいという意見がありました。「ありがと」と言われれば、誰もが嬉しい気持ちになりますよね。子どもたちも直接温かい言葉をかけてもらうことで、健やかに成長できるのだと思います。このコラムにより、少しでも温かい言葉がけが増えることを願っています。

広報たじみ
tajimist

令和2年9月 掲載記事




2. 「親育ち4・3・6・3」コラム

11月20日は「たじみ子どもの権利の日」～考えよう心の居場所～

くらし人権課

親育ち4・3・6・3たじみプランでは、保護者の皆様への「子どもの権利」に関する啓発をとおし、「親が育ち、親子の良好な関係を築く」ことをめざしています。もうすぐ「多治見市子どもの権利に関する条例」で定めている11月20日の「たじみ子どもの権利の日」ですので、今回は昨年度のたじみ子ども会議で話し合った「心の居場所」についてお伝えしたいと思います。

令和元年12月の「第22回たじみ子ども会議」では、直接顔を見て話す機会が少なくなった今、対話の大切さを再確認し、学校や家庭でどんな言葉をかけられると嬉しいかを話し合いました。子どもたちは、気持ちの良い言葉づかいや、やさしい言葉、当たり前の事への感謝などを心掛けたいと思っています。ご家族からの「今日どうだった?」という心遣いや、「勉強頑張っているね」と頑張りを認められることを子どもたちは嬉しく感じています。一方で、心配して色々聞きすぎてしまう場面では、時にそっとしてほしい、自分の時間も持たせてほしいと感じているようです。ご家族への感謝の気持ちはありますが、なかなか声に出せないという子もいました。

これからもお子さんと一緒にあたたかな言葉にあふれる家族の関係づくりをしていただけると嬉しく思います。ご協力よろしくお願いします。

学校報
児童館だより

令和2年10月 掲載記事



保護者の皆さま向けに
情報発信をしました!

2

3. FMピピの「多治見シティガイド」収録(たじみ子ども会議☆子どもスタッフが出演)



4. 学校などで心の居場所や「温かい言葉がけ」を呼びかけるチラシ

(たじみ子ども会議☆子どもスタッフが企画・作成)

チラシ

令和3年3月 配布

子どもスタッフが作成したチラシを
市内の小学校、中学校、高校に
配布をしました。

引き続き、子どもとおとなが一緒に協力しながら、子どものみなさんからの意見を実現できるように取り組みを続けます